

# 職場の安全衛生



9月の  
災害発生件数

公務災害 4件休業3件  
車両事故 3件人身0件

川崎市職員労働組合清掃支部  
編集責任者 小出 修  
編集者 湯田 政行  
2006年10月25日 54  
<http://hw001.gate01.com/masa-yy/>

車両事故防止(秋季)最優秀防止最優秀標語選定  
「心と時間と車間距離 余裕を持って安全運転」  
浮島処理センター 北 輝夫さん

2006年度第6回局安全衛生委員会 9月27日(金)

## 平成17年度傷病休業統計(13年~17年)

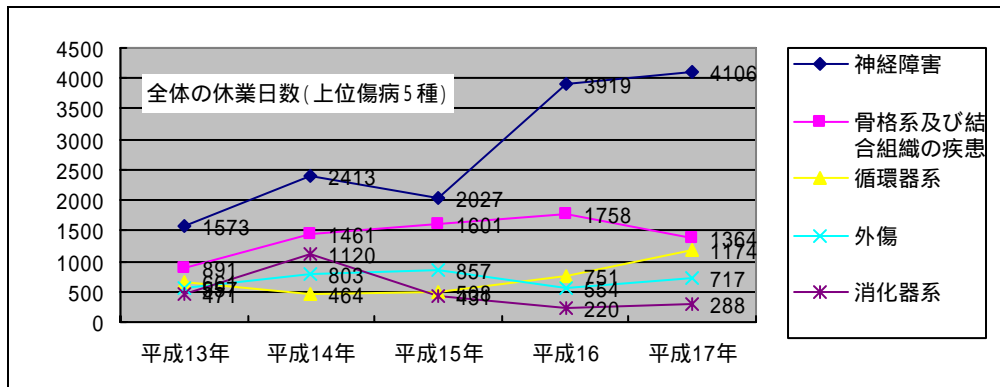
### 産業医巡視報告

#### 川崎市環境局職員安全衛生管理規定の改定について

#### 平成17年度傷病休業統計(13年~17年)

傷病全体に見ると13年度の休業人数は231人、17年度では296人で65人増加しており、1人あたりの休業日数でも23.2日から32.0日、全体の休業日数では5,362日から9,463と5年間で大幅に増加しています。特に際立って増加しているものが精神障害です。休業人数は13年度21人から28人と7人の増であるが、13年度の休業日数は1,573日であったものが5年後に4,104日と大幅に増えており、一人あたりの休業日数も74.9日~146.6日と、ほぼ倍になっています。これは精神障害にかかっている職員数は大幅に増えているわけではないが、全体の休業日数が大幅に増えていることは、一人ひとりの病状が重くなっていることが分かります。

休業日数上位5位までの統計



#### 産業医巡視報告(吉川産業医)

##### ・6月20日(火)10:00 川崎生活環境事業所

事業所安全衛生委員会に参加し、川崎生環で実施されたりスクアセスメントで取り上げた危険箇所(回転・切り返し)について、注意箇所マップとして作成しているとの報告があった。その他、腰痛健康診断(重量物取り扱い特別検診)について面接を行った。

##### ・6月27日(火)10:00 堤根処理センター

巡視では安全衛生に関する意見交換等を行い、職場巡視では廃水処理施設の点検コースを巡視し、転落・転倒・噴出等の危険箇所の指摘を行った。前回の指摘「アスベストの管理」については、保管・表示がなされおり迅速に対応できていた。

##### ・7月4日(火)14:00 加瀬クリーンセンター

職場巡視ではコンテナヤードにおける脱臭・集塵局所排気装置のフードの改善があった。要検討として、化学薬品使用時の眼保護メガネ等の使用方法や、支給品の評価・検討するよう指摘を行った。

##### ・7月5日(水)13:30 中原生活環境事業所

事業所安全衛生委員会に出席し、職員を対象に「現場で役立つ熱中症対策」について講習を行った。また、産業医を活用し事業所安全衛生水準の向上に取り組んでいることは大変良いと思われる。

##### ・平成18年度安全推進員勉強会への参加 7月11日(火)13:30

労働安全衛生マネジメントシステムの関わり方や、リスクアセスメントの重要性についての勉強会を行った。

#### 川崎市環境局職員安全衛生管理規定の改定について

川崎市労働安全衛生管理規定の改定(平成18年4月1日)に伴い、環境局では「川崎市環境局職員の安全衛生管理」と題し、労働安全衛生管理規定の改定を行っています。

## 全国産業安全衛生大会

第65回全国産業安全衛生大会が9月20日から3日間の日程で新潟市で開催されました。初日の大会は朱鷺メッセに全国から約1万人を上回る安全衛生担当者が参加し開催され、講演では青木豊厚生労働省労働基準局長から「労働安全衛生行政の動向」について報告があり、特別講演に張富士夫トヨタ自動車取締役会長より「人を大切に作る経営」と題し講演があった。2日目より各分会に別れ130項目にわたる事例研究や実施報告が行われました。

### 「労働安全マネジメントシステム」分科会

労働安全衛生マネジメントシステム（以下マネジメントシステム）分科会では、15事業所からシステムについての実施報告がありました。今回の報告は早くからシステムを導入した事業所が多く、システムを確立し運用していく中で浮き彫りにされた問題点や、システムが認証制になったことを受け、更新に向けた取り組みなどの報告があった。特にオムロン太陽(株)社からの実施報告では、従業員の58%が四肢や脳性まひなど、何らかの障害をもっており、一般企業と違った危険が潜んでいるため、従業員の保護の観点から平成13年にOHSAS=18001を習得したとの報告があった。障害を持つ労働者にとって、ちょっとした危険が大きな怪我につながってしまうため、リスクアセスメントは車椅子使用者、補助用使用者、健常者に分け、障害を持つ従業員の目線にたった評価を行うということであった。また、「労働安全マネジメントシステム」は事業者のものであってはならない、労働者が中心となって行うものであり、いかに労働者の働く現場の目線にあわせ構築していくかが重要であることと、労働者に十分な説明を行い協力のもと実施していくことが大切で



健康ですか？

## メタボリックシンドローム①

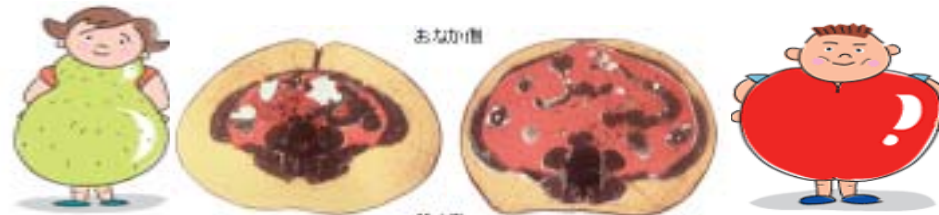
日本人の三大死因はがん、心臓病、脳卒中ですが、心臓病と脳卒中を合わせた循環器病を引き起こす原因は「動脈硬化」です。

「動脈硬化」の危険因子といえばコレステロールが有名ですが、最近の研究では、肥満（特に内臓のまわりに付着した脂肪）がさまざまな生活習慣病を引き起こし、より「動脈硬化」になりやすいことがわかってきました。そのキーワードとなるのが『**メタボリックシンドローム**』です。

肥満症や高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病は、それぞれが独立した別の病気ではなく肥満、特に内臓に脂肪が蓄積した肥満（内臓脂肪型肥満といわれます）が原因であることがわかってきました。このように、内臓脂肪型肥満によって、さまざまな病気が引き起こされやすくなった状態を『**メタボリックシンドローム**』といい、治療の対象として考えられるようになってきました。

『**メタボリックシンドローム**』の人は、動脈硬化の危険因子である「肥満症」「高血圧」「糖尿病」「高脂血症」を重複して発症していることがあります。最近の研究で、これら危険因子の重複により動脈硬化のリスクが高くなることがわかってきました。

体のどの部分に脂肪がつくかによって、肥満は2つのタイプに分れます。下腹部、腰のまわり、太もも、おしりのまわりの皮下に脂肪が蓄積するタイプを「皮下脂肪型肥満」、内臓のまわりに脂肪が蓄積するタイプを「内臓脂肪型肥満」とよびます。体形からそれぞれ「洋ナシ型肥満」「リンゴ型肥満」ともよばれています。この2つのタイプのうち、「皮下脂肪型肥満」は外見から明らかにわかりやすいですが、「内臓脂肪型肥満」は外見ではわからないことがあります。内臓脂肪型肥満を簡単に調べる方法として、ウエスト径（へそまわり径）が**男性では85cm以上、女性では90cm以上**であれば、内臓脂肪型肥満が疑われます。これは**肥満**というより**肥満症**と考えた方が良いでしょう。あなたのウエストサイズは大丈夫ですか？次回は危険性！です。



洋ナシ形皮下脂肪型肥満

りんご形脂肪肥満

知って得？納得？メタボリックシンドロームより <http://metabolic.jp/>